

KAMIGUMI REPORT

株主の皆様へ / トップインタビュー
 さらなる業績の拡大と資本効率を意識した経営を目指し、中期経営計画を修正しました。

セグメント別概況
 連結財務ハイライト
 連結財務諸表

特集 中期経営計画の修正について

Close-up
 サステナビリティ
 株式の状況 / 会社の概要



南本牧物流センター2号棟(横浜市)

株主メモ

| | |
|----------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 基準日 | 定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 中間 9月30日 期末 3月31日 |
| 株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 (お問い合わせ先) | 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777 |
| 公告方法 | 電子公告 当社ホームページ(https://www.kamigumi.co.jp/) に掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |
| 単元株式数 | 100株 |

(ご注意)
 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。
 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

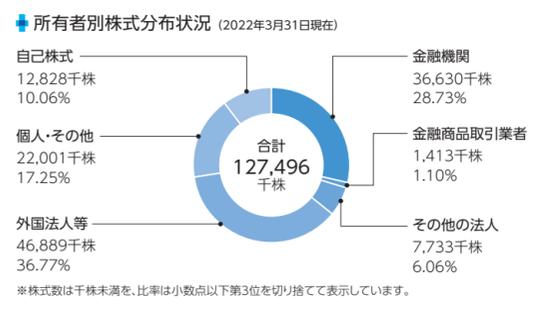
株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 250,000,000株
 発行済株式の総数 127,496,837株
 株主数 6,855名

大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行(信託口) | 16,402 | 14.30 |
| かみぐみ共栄会 | 7,132 | 6.21 |
| ㈱日本カストディ銀行(信託口) | 5,205 | 4.53 |
| 上組社員持株会 | 3,278 | 2.85 |
| NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST | 2,927 | 2.55 |
| 全国共済農業協同組合連合会 | 2,772 | 2.41 |
| (一財)村尾育英会 | 2,456 | 2.14 |
| 日本生命保険(相) | 2,271 | 1.98 |
| 住友生命保険(相) | 2,250 | 1.96 |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 | 2,094 | 1.82 |

※1 自己株式12,828千株は、上記大株主から除いています。
 ※2 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 ※3 持株比率は自己株式を控除して算出し、小数点以下第3位を切り捨てて表示しています。

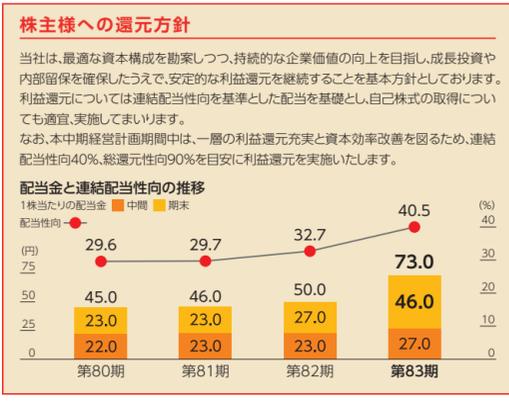


会社の概況 (2022年3月31日現在)

| | |
|---------|--|
| 商号 | 株式会社 上組 (Kamigumi Co.,Ltd.) |
| 創業 | 1867(慶応3)年(設立:1947年2月28日) |
| 資本金 | 31,642,266,011円 |
| 従業員 | 3,719名(連結:4,261名) |
| 本店 | 神戸市中央区浜辺通四丁目1番11号 |
| 主要な事業内容 | 物流事業 港湾運送、倉庫、国内運送、工場荷役請負、国際運送、物流その他 その他事業 重量・建設、その他 |

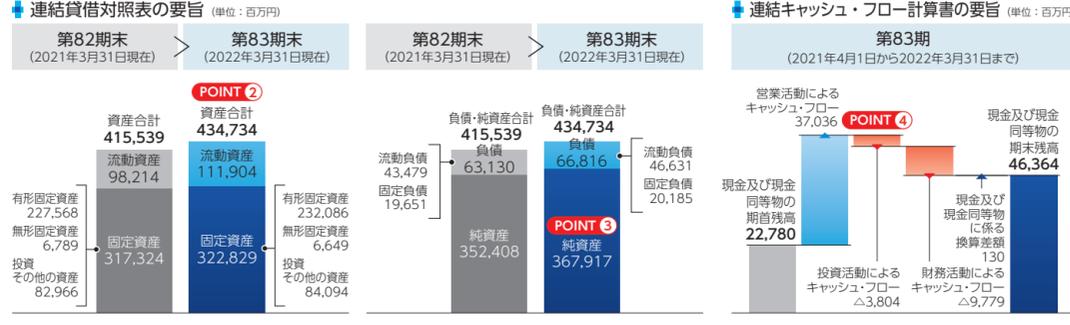
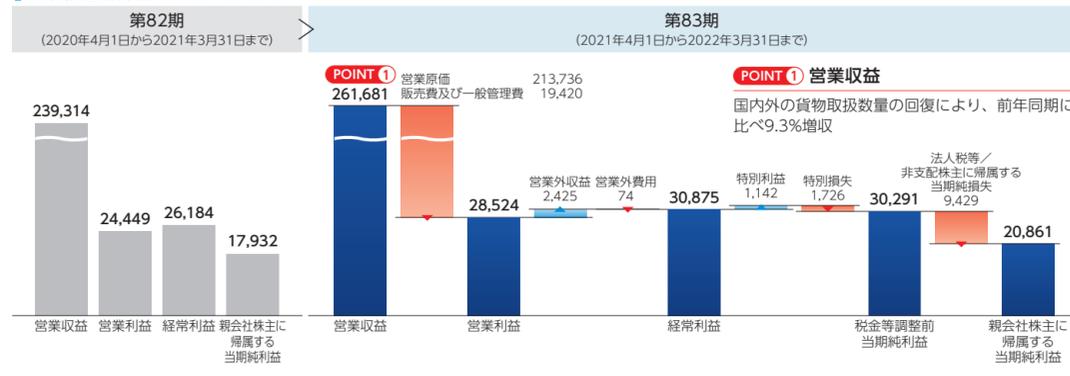
役員 (2022年4月1日現在)

| 取締役 | 監査役 |
|---------------|-----------------|
| 代表取締役会長 久保 昌三 | 常任監査役(常勤) 小林 保男 |
| 代表取締役社長 深井 義博 | 監査役(社外) 宗吉 勝正 |
| 代表取締役専務 田原 典人 | 監査役(社外) 中尾 巧 |
| 代表取締役常務 堀内 敏弘 | 監査役(社外) 黒田 愛 |
| 代表取締役常務 村上 克己 | |
| 取締役 平松 宏一 | |
| 取締役 長田 行弘 | |
| 取締役 椎野 和久 | |
| 取締役(社外) 石橋 伸子 | |
| 取締役(社外) 鈴木 三男 | |



連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。
 詳細はホームページに掲載されているIR情報をご覧ください。
<https://www.kamigumi.co.jp/ir/>



POINT 2 総資産: 「現金及び預金」、「建設仮勘定」および「投資有価証券」が増加したことなどにより、前期末に比べ4.6%増加
 POINT 3 純資産: 「利益剰余金」が増加したこと、および「その他有価証券評価差額金」が増加したことなどにより、前期末に比べ4.4%増加
 POINT 4 投資活動によるキャッシュ・フロー: 固定資産の取得による支出166億28百万円、定期預金の純減額105億68百万円などにより、38億4百万円の純支出

※第83期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第82期に係る各数値については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっています。



さらなる業績の拡大と資本効率を意識した経営を目指し、中期経営計画を修正しました。

株主の皆様には、格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。
当社は中期経営計画の2年目として、基幹事業の強化や新たな成長基盤の創出に向けた取り組みを進めた結果、第83期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の業績は、営業収益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも前期を大幅に上回り、増収増益となりました。

当期の概況と来期以降の主な取り組みについてご説明いたします。

代表取締役社長 深井義博

Q 第83期(2022年3月期)の経営環境と業績について

A 当期の物流業界は、国内貨物や輸出入貨物の取扱いは回復傾向ではあるものの、世界的な海上コンテナ需給の逼迫や燃料費の高騰など、厳しい経営環境が継続しています。

当社グループは、横浜市に南本牧物流センター2号棟(後掲Close-up参照)を新たに建設するなど、顧客ニーズを取り込んだ物流基盤の強化を図り、物流インフラを支える企業として、サービスの提供を行ってまいりました。

この結果、当期における営業収益は、国内外の貨物取扱数量の回復により、前期に比べて9.3%増収の2,616億81百万円となりました。利益面についても、営業利益は前期に比べて16.7%増益の285億24百万円、経常利益は前期に比べて17.9%増益の308億75百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に比べて16.3%増益の208億61百万円となりました。

セグメント別概況

Segment Review

物流事業

- 新倉庫の稼働開始に伴い、保管貨物が増加
- コンテナや穀物、青果物、自動車および同関連部品の取扱いが増加
- 工場荷役請負の取扱いが増加
- 海外プロジェクト貨物の取扱いなどが堅調

構成比 87.9%

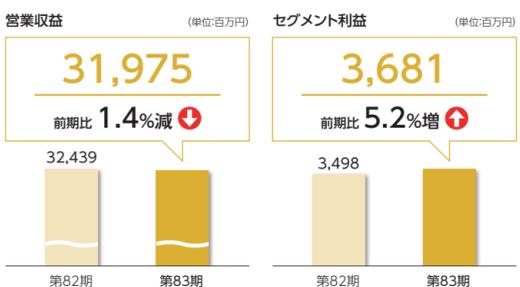


※上記の営業収益およびセグメント利益の数値は、セグメント間の取引消去前の数値を記載しています。
※第83期より「物流事業」と「その他事業」に報告セグメントを変更しており、第82期の各数値は変更後の報告セグメントに基づいて算出しています。
※第83期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第82期に係る各数値については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっています。

その他事業

- 重量貨物運搬や建設機工案件の取扱いが減少
- 太陽光発電事業の発電量が減少
- 物品販売業での取扱価格の上昇などが業績に寄与

構成比 12.1%



特集

中期経営計画の修正について

中期経営計画(2021年3月期～2025年3月期)修正の概要

前掲トップインタビューQ&A「来期以降に向けた取組みと中期経営計画について」にて紹介した中期経営計画修正の概要についてご説明します。

| 業績目標 | | | |
|------|----------------|--------|-----------------|
| | 当初目標(2025年3月期) | | 修正後目標(2025年3月期) |
| 営業収益 | 2,800億円 | +10.7% | 3,100億円 |
| 営業利益 | 300億円 | +10.0% | 330億円 |
| 経常利益 | 310億円 | +12.9% | 350億円 |

Point 1 業績目標の上方修正

重点戦略

Point 2 重点戦略の追加

- ① 基幹事業の強化
- ② 海外事業の収益性強化
- ③ 新規事業の開拓
- ④ 人材確保・育成強化

- NEW! ⑤ DXによる事業の強化

1. 事業インフラ強化
 - オペレーションのシステム化・自動化による作業効率向上
→ 人員配置の柔軟化/人員不足への対応
2. CS(顧客満足度)向上
 - 外部プラットフォームとの連携による物流全体の効率化
 - 入出庫予約サービス等の導入によるサービスレベル改善

資本政策

Point 3 資本コストを意識した経営の加速

- 1 負債の活用
- 2 投資の拡大
- 3 利益還元の積極化

| 目標とする財務指標 | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 財務指標 | 2020年3月期末実績 | 2025年3月期末目標 |
| ROE | 5.5% | 6.5% |
| 自己資本比率 | 83.9% | 80%以下 |

※ROEについては、本中期経営計画期間終了後もさらなる向上を図り、長期的には7%台を目指します。

Close-up

横浜港に「南本牧物流センター2号棟」竣工

京浜地区における大豆などの穀物の保管需要拡大に応え、安定的なサービスを提供するため、2021年8月、横浜市の南本牧埠頭に「南本牧物流センター2号棟」を竣工しました。新倉庫は全保管庫に定温機能を備えており、厳格な温度管理による高品質な保管サービスを提供するとともに、穀物の自動計量袋詰め設備を設置し、作業の迅速化ならびに省力化を実現しています。また、屋上一面に自家消費型太陽光パネルを設置し、事業活動における環境負荷の軽減に貢献します。

隣接する既存の「南本牧物流センター1号棟」との一体稼働により、業務コストの改善と物流品質の向上を実現し、さらなる収益拡大に努めてまいります。

■施設の概要

| | | | |
|------|---------------------|---------|--------------|
| 施設名称 | 南本牧物流センター2号棟 | 構造 | 鉄骨造 4階建 |
| 所在地 | 神奈川県横浜市中区南本牧3番10、11 | 主要設備 | 垂直搬送機 5基 |
| 竣工日 | 2021年8月30日 | | 貨物用エレベーター 1基 |
| 延床面積 | 26,951.39㎡ | | 大豆搬出入プラント 1基 |
| 敷地面積 | 27,236.73㎡ | 太陽光発電容量 | 357.3kW |



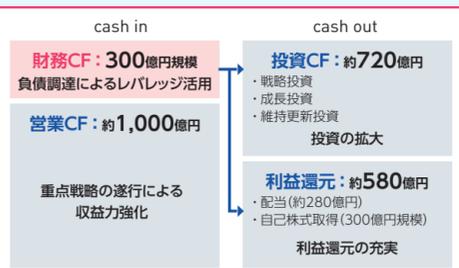
▲ 南本牧物流センター2号棟

Point 3 資本コストを意識した経営の加速

当社は、財務安定性の維持を前提として、適正な資本構成の実現を通じた企業価値の最大化、および資本コストを一層意識した経営を行うべく、以下の資本政策を実施してまいります。

1 資本コスト抑制に向けた負債の活用

- 資本コスト抑制の観点から、「負債活用」による投資と利益還元を積極化
- 3年間で総額300億円規模の負債調達を予定



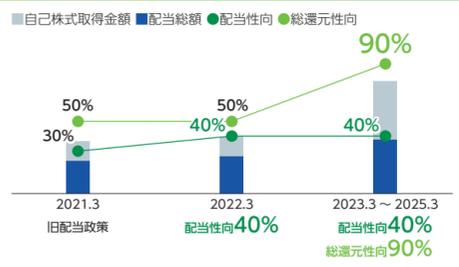
2 成長に向けた投資の拡大

- 3年間で総額720億円規模の投資を予定
- 競争力強化や中長期的な事業成長を見据えた「成長投資」を大幅に拡大
- 資本業務提携やM&Aを目的とした「戦略投資」枠を新設



3 利益還元の積極化

- 連結配当性向40%を目安とした株式配当を実施(2022年3月期より適用)
- 3年間で総額300億円規模の自己株式を取得
- 各事業年度で総還元性向90%の利益還元を実施



サステナビリティ

相生バイオマス発電所向け燃料輸送に電気推進船を導入

当社が受注し、2022年秋の作業開始を予定している相生バイオマス発電所(兵庫県相生市)向け発電燃料のサイロ保管・輸送事業に関し、2021年12月、当社、関西電力(株)および(株)e5ラボの3社は、神戸港にある当社六甲サイロから発電所への燃料輸送において、電気推進船を1隻導入することに合意しました。

導入する電気推進船は、小型発電機と大容量蓄電池を備え、従来のディーゼル船と比べて運行時のCO₂排出量を最大50%(400t-CO₂/年)削減します。これは、近年課題となっているサプライチェーン全体におけるゼロカーボン化に向けた取組みの一つであり、バイオマス燃料を輸送する貨物船として電気推進船を導入するのは世界初となります。なお、本電気推進船の運航は2023年5月より当社子会社の上組海運(株)が行う予定です。

当社は国土交通省が推進する「カーボンニュートラルポート」実現に向け、今後も各種施策に継続して取り組んでまいります。

| ■導入する電気推進船の性能・仕様 | |
|------------------|----------------------------|
| 航海速度 | 最大運航速度11ノット 通常運航速度10ノット |
| 発電機容量 | 500kW×2基 |
| バッテリー容量 | 440kWh |
| 載貨重量 | 1,600トン |
| 竣工予定 | 2023年4月 |

■外観(イメージ)



■航路(イメージ)

